甑島長目の浜及び潟湖群の植物群落

【所　　在　　地】薩摩川内市里町里字牛瀬3026番外13筆（上甑島）
【種　　別】国指定天然記念物
【指定年月日】平成27年３月10日

上：全景　　左下：南側展望台から　　右下：風衝低木林

（写真提供：薩摩川内市教育委員会）

長目の浜は，上甑島北部で北から南東方向に伸びる，長さ４ km，幅40～100ｍの砂州が発達してできた浜である。上甑島北部には，この砂州によって形成された潟湖群（海跡湖群）が分布している。指定対象は，長目の浜と，北から続く海鼠池，貝池，鍬崎池の３湖沼，砂州上の植物群落である。

砂州上では季節風の影響を受け，北西部から風衝草原，風衝低木林，低木林へと変化している。また，砂州上に堆積している砂礫の大きさが北側から南東に向かって小さくなり，海水の透水性の違いで海鼠池，貝池，鍬崎池の順に塩分濃度が低下し，植生もそれに対応して変化している。このような砂州上に発達した植物群落は全国的にも少なく，性質の異なった三つの潟湖群とともに学術上貴重である。